

いま、語るあの戦争



◇日時 8月9日(日)10:00~12:00

◇場所 大宮図書館視聴覚室

◇内容 「今、語る70年前のあの戦争」

渡部忠さん(99)、小林明治さん(92)

「原爆と人間展」実行委員会 連絡先 090-1254-3502(星)

70年来の熱い夏 8月は、ヒロシマ・ナガサキ、さらには「終戦記念日」と唯でさえ暑い季節ですが、『戦争法案』をめぐる文字通り70年来の熱い夏になっています。国の歴史的岐路を決める「戦争法案」、大きく観れば戦後70年という時間と記憶が大きな原因です。戦争の悲惨さを知る政治家がほとんどいなくなり、ポツダム宣言も「つまびらかに読んでいない」と公言する首相の出現を許したのも圧倒的多数が戦後世代という国民の構成です。憲法と同じく、あの無謀な戦争の事実と侵略戦争の本質を知るためには意識的学習が必要です。

すさまじい戦争体験と痛快な生き方

今回、語り部となる天沼町在住の超お元気なお二人は

1、渡部さん(99)：海上船舶通信士となることで世界をまわりたいという少年の夢をかなえて日本郵船に入社。ところが、同僚に代わって乗船した戦時徴用船が魚雷攻撃で沈没、乗員43人、兵隊118人の合計161人のうち唯一の生存者となったお

話です。

2、小林さん(92)：当時20歳前後で海軍の通信兵として、極秘の日本軍艦船名簿を整理する任にあたり、次々と赤線で削除されている名簿に驚愕した。他に、横浜大空襲の惨状、小樽で終戦を迎えるまでのお話をさせていただきます。

特筆すべきはお二人とも並でないお元気を保って生活していらっしゃる点です。痛快な生き方から、健康の秘訣を得ることができるかもしれません。

司会は若手弁護士の近藤里紗さん。若い世代の観点からお話を引き出してもらいます。

「大宮原爆と人間展」は市教育委員会の後援を得て、旧大宮市内の全小中高校にチラシが配布されました。19回にわたって続くこの企画は、もともと故望月市議や元市議の高橋たかすけさんたちの尽力ではじまり、市民有志が引き継いでいるものです。貴重な財産を最大限生かすようお誘いあわせの上、ご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。(飯塚)